

茶花で盛り上げよう！国東乾しいたけ！

農山漁村振興部
寄井田 祥平

第66回全国乾椎茸品評会において茶花冬菇の部で国東市の尾方正記氏が農林水産大臣賞を受賞し、同部門で国東市の鹿島戦一氏、吉武和久氏、糸永秀二氏が林野庁長官賞を受賞しました。

国東地域の乾しいたけの特徴は、広葉樹林内の明るいほだ場でしいたけを育て、菌傘の花柄が美しく明るい色になるところです。

受賞者の皆さんは、普段から、県主催の研修会や、地域生産団体の勉強会に積極的に参加し、良品な「国東しいたけ」の生産を目標に技術を研いっており、これらの努力と情熱が農林水産大臣賞受賞に繋がったと自負しております。

今回の受賞をうけ、地域の生産者からは「茶花で国東を盛り上げよう！」との声も聞かれ、地域が活気づいています。

振興局では、これからも東部地域の生産者が活躍できるよう、引き続き支援していきます。



表彰を受ける尾方さん



ネクスト品目「ホオズキ」をPR

生産流通部
有馬 義信

「おおいたのホオズキ」は、作付け面積、産出額とも全国1位で、品質も非常に良いことから、実需者（市場、花屋等）から高く評価され、引き合いも非常に強くなっています。

7月23日、旧盆出荷の最盛期を迎えるにあたり、ホオズキの品質の良さをアピールし、消費拡大に繋げるため、杵築市山香町の生産者(大分県花き生産者協議会会員)が中心となり、贈呈者の一人である小屋健一さんのほ場で生産されたホオズキを知事に手渡しました。

本年度は、梅雨明けが早く収穫直前の猛暑で着色不良、葉枯れ等が心配される中、振興局でマニュアルを作成し、栽培管理の徹底を図ったことにより、品質の良いホオズキが出来上がりました。

ホオズキは、乾熱滅菌処理苗生産やネット栽培

などの新しい技術により、生産性が向上し、相対単価も安定していることから、花き栽培において、経営の中心となる品目となっています。また、平成29年9月に戦略品目ネクストにも認定され、杵築市山香町では新規の生産者も増えています。

今後、ファーマーズスクールの活用により、新規就農者の確保・育成を行い、さらなる産地拡大が期待できます。



知事を囲み記念撮影

小学生との「ため池」学習会

東部振興局 日出水利耕地事務所
岩屋 恵祐

杵築市大内にある天神ため池改修工事の着工を前に、7月5日、隣接する大内小学校4・5年生23人を対象に「ため池学習会」を開催しました。

学習会は、当初、ため池現地で予定していましたが、悪天候のため体育館内でスライドを使用し、

- ①ため池の役割
- ②ため池の大きさ
- ③ため池にいる生物
- ④ため池改修工事について、クイズ形式で学習しました。



クイズに答える児童たち

児童たちからは、「近くにため池があるのを知

らないことがたくさんあった」「農家の方が苦勞して作ったお米を大事にしたい」などの感想がありました。また、工事施工業者の協力により、ため池に生息しているフナを水槽に入れ、児童たちがのぞき込んだりさわりながら観察しました。

この学習会を通じて、農業用水の大切さ、地域の歴史や農業に関心を持つてもらうことが出来ました。次回は、工事中の現地見学会を予定しています。



初めてフナを見る児童もいた

『大分つや姫マイスター』第5号認定

農山漁村振興部
赤野 和恵

県では、大分のブランド米として『大分つや姫』を推進しています。「つや姫」は山形県が育成した品種で、品質が優れ、優れた食味やつやのある外観が特徴です。また、収穫の早い極早生種なので既存品種との作型分散が可能であり、病気に強く丈が短く倒れにくいいため、生産面でもメリットがあります。

『大分つや姫』のさらなる収量・品質向上及びブランド化を図るため、その役割を担う生産者を『大分つや姫マイスター』として認定しています。

東部局管内では、杵築市山香の集落営農法人（農）こめ・こめ・くらぶが、県下で5番目に認定されました。

（農）こめ・こめ・くらぶは、9年前の現地実証から熱心に栽培に取り組んでおり、ポイントとなる中干し・穂肥の徹底や適期収穫を実践し、安定した収量・品質を確保できるようになりました。現在3.2haの作付けを行っており、本年からは近年の異常気象に対応するため、「溝切り」を行うことでのり的確な水管理を行っています。

7月12日に開催された、山香のつや姫生産者を対象にした現地研修会では、マイスターとして初めての活動として、法人の岩尾代表からこれまでの栽培管理について説明いただきました。

岩尾代表は、「『大分つや姫』をもっとPRしていきたい」と意気込んでいます。



管理状況を説明する岩尾代表
